【中3】国語 文章問題　説明文 1

月　日 名前　　／100点

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私たちの暮らしは、手間を減らす方向に進んできた。ボタン一つでごはんが炊け、画面を押せば品物が家に届く。手間が減った分だけ、時間にゆとりが生まれた。これは、たしかに大きな進歩である。

しかし、手間を省くとき、私たちは何を一緒に手放しているのだろうか。たとえば、手紙を考えてみよう。手紙を書くには、便せんを選び、言葉を考え、字を書き、切手をはって出す必要がある。メッセージを送るのに比べれば、ずいぶん手間がかかる。だが、受け取った人は、その手間の分だけ、相手が自分のために時間を使ってくれたことを感じ取る。手紙の価値の一部は、書かれた内容ではなく、かけられた手間そのものにあるのだ。

料理も同じである。できあがった料理を買えば、手間はかからない。けれども、自分で野菜を切り、火の強さを調節しながら作ると、食べ物がどのようにできていくのかが分かる。手間とは、物事の成り立ちに触れる時間でもある。手間を省けば、結果は手に入るが、その過程は見えなくなる。

もちろん、すべての手間を取り戻すべきだと言いたいのではない。省いてよい手間はたくさんある。大切なのは、手間を省くたびに、そこで何を手放したのかを意識することだ。何を手放したのかを知っていれば、本当に必要なときには、あえて手間をかけることを選べる。

便利さは、私たちに時間を与えてくれる。その時間を何に使うかを考えるとき、あえて手間をかけることも、選択肢の一つとして残しておきたい。手間の中には、効率だけではかれない何かが、たしかにふくまれているのである。

（この問題のための書き下ろし）

問一　筆者は、手紙の価値の一部はどこにあると述べていますか。本文中から十五字以内で抜き出しなさい。

問二　筆者は、料理の例をもとに、手間とはどういう時間だと述べていますか。「～時間」につながるように、本文中から十五字以内で抜き出しなさい。

問三　「すべての手間を取り戻すべきだと言いたいのではない」とありますが、筆者が大切だと考えていることとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　できるだけ多くの手間を省き、時間のゆとりを増やすこと。
イ　手間を省くたびに、そこで何を手放したのかを意識すること。
ウ　手紙や料理など、昔ながらの方法だけを使うこと。
エ　便利な道具を使わずに生活すること。

問四　「手間を省けば、結果は手に入るが、その過程は見えなくなる」とありますが、どういうことですか。料理の例にふれて、六十字以内で説明しなさい。

問五　この文章の論の進め方として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　便利さの利点を認めたうえで、手紙と料理の例から手間の価値を示し、手間を選べるようにしておくことを提案している。
イ　便利な道具の危険をいくつも挙げ、使うのをやめるべきだと主張している。
ウ　手紙と料理のどちらがより手間がかかるかを比べ、結論を出している。
エ　昔と今の暮らしを数字で比べ、今の暮らしのほうがよいと述べている。